

令和3年度

学校関係者評価報告書

令和3年5月28日



学校法人太田アカデミー

太田医療技術専門学校

1 はじめに

太田医療技術専門学校（以下、本校という）は、大学等における修学の支援に関する法律施行規則第2条及び平成25年度文部科学省告示第133号第2条の定めにより、本校学則第4条、専修学校において準用する学校教育法第42条及び同施行規則第66条、第67条、第68条並びに「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づいて令和元年度における本校の学校運営及び教育活動等に関して自己評価を行った。自己評価は本校ウェブサイト「公表情報」ページ（<http://www.ota.ac.jp/medical/disclosure.html>）にて広く公開しているので、参考にされたい。

自己評価について、令和3年5月27日に学校関係者評価委員会（以下、本委員会という）を開催し、各評価項目について、自己評価の妥当性等を検討し、その結果を本報告書として公開するものである。

次ページ以降に、項目ごとに学校関係者評価を記載した。また、項目により、各委員からの意見・提言等も記した。各項目における評価は4段階評価とし、それぞれの項目に対する活動が適切であると評価できるものを4、ほぼ適切を3、やや不適切を2、不適切を1として評価した。

2 学校関係者評価委員会

本委員会は、学校長の諮問機関として位置づけられ、医療分野における実務に関する知見を有する人物、組織運営等の経験が豊富な人物にて組織され、委員の経歴に基づく知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動および学校運営の改善の参考とする。

本委員会の構成員は以下の通りである。

氏名（五十音順）	所属等
佐藤 智之氏	群馬大学生生活協同組合 専務理事
引田 正俊氏	一般社団法人太田新田歯科医師会 会長／引田歯科医院 院長
和田 通氏	医療法人團康会軽井沢團クリニック 事務長

また、本委員会には以下の教職員等が同席した。

氏名	所属等
丸山 智晴氏	群馬大学生生活協同組合 専務理事
岡田 淳一	本校副校長
秋野 泰治	同教務部次長
戸谷 幸永	同教務次長補佐
吉田 敏哉	同理学療法学科長
林 幸彦	同作業療法学科長
山中 克美	同臨床工学科長
鈴木 俊彦	同救急救命学科長
金子 聖美	同歯科衛生学科長
篠原 奈緒美	同医療事務管理学科長
重田 美智子	同介護福祉学科長
諏訪 由美子	同看護学科長
西浦 昭次	同教務部主任（書記・事務担当）

3 学校関係者評価

(1) 教育理念・目標

評価内容		学校 関係者 評価
1	学校の理念、目的、育成人材像は定められているか	3
2	学校の理念、目的、育成人材像をもとに特色ある職業教育が行われているか	3
3	社会経済のニーズを踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
4	学校の理念、目的、育成人材像は特色、将来構想などが学生、保護者に周知されているか	3
5	学科の教育目標、育成人材像は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	3

<委員の意見等>

(和田委員) 新型コロナウイルス感染症の拡大の影響を受け、大変な思いの中、学校・学科運営を行っていることが推察される。その困難な状況下にもかかわらず、「教育理念・目標」という評価の中で自己評価が高い学科が多い。他の評価項目では、各学科で厳しい状況下での対応で苦慮した様子が窺えるが、この評価項目では太田医療技術専門学校全体として、適切な判断に基づいて運営が行われていると認識できる。次年度以降の取り組みも期待している。

<学科長からの補足>

(諏訪学科長) 看護学科としての自己評価が他の学科よりも低いが、学科設置5年目で試行錯誤しながら学科運営を行っており、学校の理念等に対する学科教員の共通理解の浸透が不十分と感じており、「適切」とは言い切れない。来年度カリキュラム変更に向けた協議の中でこれらの評価項目を基準にしてカリキュラム編成を行うようにしている。次回以降の評価では、各項目の評価が上がるものと認識している。

補足・意見等を受けて各委員検討の結果、本項目については、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(2) 学校運営

評価内容	学校 関係者 評価
1 目的等に沿った運営方針が策定されているか	3
2 運営方針に沿った事業計画が策定されているか	3
3 運営組織や意思決定機能は規則的において明確化されているか、有効に機能しているか	3
4 人事、給与に関する規定は整備されているか	3
5 教務、財務等の組織整備など意思決定のシステムは整備されているか	3
6 業界や地域社会に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
7 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3
8 情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

<委員の意見等>

(佐藤委員) 作業療法学科の評価3に関する補足で「意思決定のスピードには改善の余地がある」と考える」とあるが、これは学科内の評価か、学校としての評価か。具体的にはどのようなことか。

(林学科長) 学校としての意思決定のスピードに改善が必要であるという認識で評価した。学科内で問題が発生した場合や学校に対する要望があった場合など、スピード感をもった対応があるといい。また、デジタル化が進展する中で、書類等に上長の押印が必要であることなど時流に合わない部分もあるので、そのような点について改善が必要だという認識を持っている。

(和田委員) 授業ではオンラインでの対応もあったようだが、学校全体のオンライン授業の実施状況の統計はあるか。

(秋野教務次長) 統計はとってはいないが、昨年度4月の休校時にオンライン授業の体制を整え、ゴールデンウィーク後から介護福祉学科以外の学科でオンライン授業を実施した。介護福祉学科は定員40名の教室に在籍者が1年生で15名、2年生で9名だったことから、確実に密を回避できる状況にあったため、対面授業を継続した。

一斉のオンライン授業は5月で終了し、6月以降は感染防止対策を徹底して対面授業に切り替えた。学科や非常勤講師の状況により、一部オンライン授業を行うこともあった。

現在は授業の展開以上に、臨床実習の受け入れが難しい医療機関が多く、実習先の確保や対応に苦慮している。

(金子学科長) 歯科衛生学科では、昨年度陽性例が判明した際に全学年登校停止にした。その際は対面授業からオンライン授業に切り替え授業時間を確保することができた。

補足・意見等を受けて各委員検討の結果、本項目については、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

3 教育活動

評価内容	学校 関係者 評価
1 教育理念等に沿った教育課程の編成、実施方策などが策定されているか	3
2 教育理念、育成人材像や業界ニーズを踏まえた学科の教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	3
3 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
4 キャリア教育、実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫、開発等が実施されているか	3
5 関連分野の企業、関連施設・業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	3
6 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	3
7 授業評価の実施、評価体制はあるか	3
8 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
9 成績評価、単位認定、進級、卒業判定の基準は明確になっているか	4
10 資格取得等に対する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
11 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	3
12 関連分野における企業等との連携において優れた教員を確保する等マネジメントが行われているか	3
13 関連分野における先端的な知識、技能等を習得するための研修や指導力育成など資質向上のための取り組みが行われているか	3
14 職員の能力開発のための研修が行われているか	3

<委員の意見等>

(岡田副校長) 項目 13 について、全体的に自己評価が低くなっている学科が多い。特に、2・3点となっている学科について、評価の根拠や今後どのように改善していくのか各学科の意見を委員の方々に説明してほしい。

(吉田学科長) 昨年度は、研修会そのものが延期・中止となったので、通常の日常に戻れば、各教員は積極的に参加をすることになると考える。また、先端的な知識・技能等の習得には、各医療機関との連携が欠かせないと思うので、習得の素地を作る上で、医療機関との連携を図っていきたい。

(林学科長) これまでは教務優先で研修会や学会等の参加をしてこなかった。今後、学会参加・発表は教員としての責務と捉えて、積極的に対応したい。

(山中学科長) 医療現場にいたときと比較して、各種学会・研修会への参加は少なくなっている。認定資格等に必要研修会等参加できるように体制は作っているが、教務優先となっている状況はある。ただし、関連した情報の収集については怠らないようにしている。

(篠原学科長) 2年に1度の診療報酬改定があり、研修会等には必ず参加していたが、昨年は新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響を受けて軒並み中止となり、参加したくても参加できない状況であった。

(重田学科長) 研修会の中にはオンラインで行われるものもあったが、通常の形式のものは中止が相次ぎ、他の養成校の先生方と情報交換を行うという意味合いでこの項目の取り組みは問題ないとは言いが切れなかった。

(諏訪学科長) 看護に関連した研修会もオンライン形式となったものが多く、その中でも国家試験に関するものとカリキュラムに関するものについては多くの教員が参加できた。その他のテーマの研修会等については、オンライン形式で受講しやすい状況ではあったが、日常業務の傍らで数時間にわたる研修会等に集中して参加することに対して、やや負担があった。昨年度の実績と比較して、参加が少なかったことから2点とした。

補足・意見等を受けて各委員検討の結果、本項目については、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(4) 学修成果

評価内容	学校 関係者 評価
1 就職率の向上が図られているか	4
2 国家試験または各種資格・検定等の合格率の向上が図られているか	3
3 退学率の低減に向けた取り組みが図られているか	3
4 卒業生、在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
5 卒業後のキャリア形成への効果を把握し、学校の教育活動の改善に活用されているか	3

<委員の意見等>

(篠原学科長) 自己評価時には学科の就職率は95.6%だったが、本日に至るまでに残る1名も就職内定して、100%となった。

(和田委員) 各学科の国家試験等の合格率が毎年向上している。これに何か秘訣のようなものがあるか。

(秋野次長) 各学科の努力の結果としか表しようがない。各学科が熱心に取り組んだ結果である。

(和田委員) 特に合格率100%となった3学科についてはどうか。

(林学科長) いかに「手をかけるか」に尽きる。4年生の臨床実習の終了を待って本格的に国家試験対策に移るが、夜遅くまで教室を開放したり、成績が伸び悩む学生に個別に補講等に対応したりするなど、我々の取り組みは特別なことを行うわけではなく、いかに手間をかけて指導するかだと思う。

(秋野次長) 学校長の指示でもあるが、入学時から常に国家試験を意識させて授業を行っている。

補足・意見等を受けて各委員検討の結果、本項目については、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(5) 学生支援

評価内容	学校 関係者 評価
1 進路、就職に関する支援体制は整備されているか	4
2 学生相談に関する体制は整備されているか	3
3 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3
4 学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
5 課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
6 学生の生活環境への支援は行われているか	3
7 保護者と適切に連携しているか	3
8 卒業生への支援体制はあるか	3
9 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
10 高校、高等専修学校との連携によるキャリア教育、職業教育の取り組みが行われているか	3

<委員の意見等>

(佐藤委員) 項目 10 について、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が要因となって取り組みが不十分であるという認識であれば、それは学校内部の問題ではなく外的要因であると思うので、評価点が 2 点はあまりにも不合理ではないか。学校としてまたは学科として連携の体制が整っていれば、評価は高くてもよいのではないか。昨年の評価点は 3 点であり、昨年度同様の体制が整っている状況であれば、今年度も 3 点でよいのではないか。

項目 10 については、他の委員から佐藤委員の意見に対して異論はなく、評価点は 3 点とすることとなった。その他の項目については、検討の結果、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(6) 教育環境

評価内容		学校 関係者 評価
1	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
2	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	3
3	防災に関する体制は整備されているか	3

<委員の意見>

本件について、委員からの意見等はなく、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(7) 学生の受け入れ募集

評価内容		学校 関係者 評価
1	学生募集活動は適正に行われているか	3
2	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	3
3	学納金は妥当なものとなっているか	3

<委員の意見>

項目2について、歯科衛生学科の自己評価が低く、引田委員がその根拠を質し、これについて金子学科長が回答した。この回答を受けて、和田委員からその評価点については妥当性なしとの見解が示された。これにより、本項目における歯科衛生学科の自己評価は3点に修正することとなった。

なお、本件に関する各委員及び学科長等の発言内容等の詳細については、本校の学生募集活動に関する秘匿性の高い情報を含むため、本報告書においては明記しないこととした。

また、各項目教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(8) 財務

評価内容		学校 関係者 評価
1	中長期的に学校の財務基盤は安定していると言えるか	4
2	予算、収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
3	財務については会計監査が適正に行われているか	4
4	財務情報公開の体制整備はできているか	4

<委員の意見>

本件について、委員からの意見等はなく、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(9) 法令等の遵守

評価内容		学校 関係者 評価
1	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
2	個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
3	自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4
4	自己評価結果を公開しているか	4

<委員の意見>

(佐藤委員) 看護学科の自己評価について、法令・設置基準等を遵守して運営が行われているのであれば、評価点は4点が適切ではないか。

本件について、これ以外の意見等はなく、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

(10) 社会貢献・地域貢献

評価内容		学校 関係者 評価
1	学校の教育資源や施設を利用した社会貢献、地域貢献を行っているか。	3
2	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
3	地域に対する公開講座、教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	3

<委員の意見>

(佐藤委員) 各項目について、要請があってそれを断ったということであれば評価として低くならざるを得ないが、要請自体がなかったり、例年行われていたものが中止となったりして取り組み自体がなかったのであれば、昨年度の状況は特別なものであるので、これを評価の観点に取り入れるべきではないと考える。取り組みの体制が整っているのであれば、一昨年度と同じ評価としてもよいのではないかと思う。

(吉田学科長) 項目1については、もともと学科としては取り組んでいなかったので自己評価は2点である。しかし、項目3については、臨床実習指導者講習会等が中止となったためであり、佐藤委員のご意見を基準とすると3点となる。

(諏訪学科長) 看護学科におけるボランティア活動については、同様に佐藤委員のご意見を基準とすれば、3点となる。

本件について、これ以外の意見等はなく、教務部自己評価を学校関係者評価して採用することとなった。

4 総括

本委員会の閉会にあたり、各委員が以下の通り総括を行った。なお、本報告書の記載は五十音順とした。

(佐藤委員) 昨年度の学校関係者評価において、「コロナ禍」によって評価が低くなってしまうことがないよう気を付けないといけないという話をさせていただいたことを思い出した。この状況が続く中では、やりたくてもできないこともあり、どうしても厳しい評価となることがあるが、この評価自体は公開されるものであるので、客観性をもったものでなければならないと考える。

(引田委員) 各学科長は自分の学科について厳しい評価をしている。個人的な意見ではあるが、2点はあまりにも低く、評価としてはつけないほうがよい。「コロナ禍」ということは差し引いて評価をした方が学校の体制等を反映した妥当性のある評価になるだろう。社会貢献についても、太田新田歯科医師会としても太田市の要請により中止となり、法人としてどのような形で社会貢献できるかを検討しているところである。どの業界でも事業の運営に苦慮しているが、教育機関に属する者として新型コロナウイルス感染症に感染しない、学生の健康を守ることを徹底してほしい。今後の学校のさらなる発展に期待している。
また、この委員会は各学科長と対面する数少ない機会なので、次回は座席表の準備をお願いしたい。

(和田委員) 今回の各学科の自己評価を確認させていただいて、今回をいわば起点として来年度以降、例えば評価点が2点だったものをどのようにして評価を上げていくか、前向きな取り組みを期待したい。各項目について、各学科の取り組み内容の補足が記載されているが、この部分が対外的にも各学科の努力の証として伝わってくる。この部分を多く評価できればと思っている。

5 その他

(1) 総評

本校を代表して、岡田副校長が以下の通り総評を行った。

「森下学校長が折に触れ教員のスキルアップが重要であるとの発言をしている。「教育活動」評価項目にもあるが、所属学会で発表を行い、教員の活動を形にして残していくことが、本校教員のスキルアップにつながると思う。今後の教員の意欲的な取り組みをお願いしたい。」

(2) 委員の退任及び就任について

佐藤委員が群馬大学生協同組合の人事異動に伴い、本年5月をもって同組合専務理事を退任することとなり、後任として、本日出席の丸山智晴氏が新たに本校学校関係者評価委員として就任することになり、ご挨拶を頂いた。

以上